

受講番号 18030 学校名 高知西高等学校 氏名 有澤 雅子

## 研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 普通科 1-1・2H 生徒数 26 名  
 科目名 英語 / OC 単位数(授業時数) 5 時間 使用教科書名 POLESTAR / BIRDLAND OC

## クラスの様子・特徴

1講座26名の少人数制をとっている。第1回スタディサポートで入学時の基礎力の定着と家庭学習時間など、学習状況の把握を行った結果、全体的に語彙や文法などの基礎学力が不十分で、苦手意識を持つ生徒が多い。

## 問題の確定

音声を利用して、英検準2級合格レベルのリスニング力をつけるとともに、語法、文法力を補強し英語使用のための表現力を伸ばす。

## 予備調査

## A 授業の観察

入学当初は英語が不得意という生徒も、ペア(グループ)活動には積極的に参加できている。リスニング、音読、多読を通して「学んだら使ってみる」活動に抵抗感は薄れてきているようである。課題や家庭学習への取り組みはやや改善されてきている。

## B 生徒による授業評価

「授業参加態度」と「表現・知識・理解度」を問う意識調査を7月に実施する。当初英語学習で最も難しいと感じていた文法の基礎理解は概ね良好である。未知語の推測・スキミングについては、6割の生徒ができたと感じている。

## C 学力データ

7月実施の進研模試での分野別成績はいずれも県内平均を下回る結果となる。中学校での英検取得状況は3級(27%)、4級(27%)と全体の半数以上を占め、準2級取得者は1名である。

## リサーチ・クエスチョン

リスニングを中心に耳から英語をインプットすれば、内容理解や表現力を伸長するのに役立つのではないだろうか。

## 仮説・実践・検証

## 仮説1

英文をリスニングしながら同時に日本語訳を読めば、内容理解につながるのではないかと。

## 実践1

和訳先渡しの利用法の1つとしての活用 リスニングの前にVocabulary Inputを繰り返し、英語の音声と文字、日本語と英語の即時変換ができるように、大意把握(Skimming)のための推測力をつけながら速読速解トレーニングを行う。CDを適当な箇所まで止めて同時通訳的に英文を日本語に変換したり、反対に日本語を英文に変換するリスニングと理解をつなぐ練習等を行うことでアウトプットにつなげる。

## 検証1

4技能のバランスのとれた習得を柱とした学年共通の目標にそって、定期考査(1年普通科共通問題)に即した内容理解や表現力、語彙等をつけるための学習方法を生徒に実行させることができる。また、英文の内容や難易度によってタスク活動に変化や多様性を持たせ、リスニング量を増やすことができる。

## 仮説2

漠然とリスニングするだけでは通常聞き取れない助動詞や冠詞、前置詞などは、文法力を付ければ容易に推測できるのではないかと。

## 実践2

「リズム基本例文」を繰り返し音読し、使える文法をマスターする。内容理解や表現力を高めるための文法と位置づけ、中学レベルの文法の定着を図る。OCでのALTとJTEのTT授業(週1時間)では原則日本語禁止とし、英語で活動できるようにすることを目指す。語彙や表現の定着をはかるための復習として、毎回ALTによる各レッスンのテーマに即したオリジナル対話文のディクテーションテストを行う。

## 検証2

実際の言語使用場面での機会を増やすことで集中力が高まる。ペアで英問英答形式のインタビューを行い、聞きとった内容を発言することで、基本的な文型や文法事項の確認ができ、コミュニケーション力が伸びたと思われる。特に対話文と語彙のディクテーションテストは、ALTが2度全文をポーズなしで読むため負担となるリスニングであるが、聞く量と機会を増やすことで定期考査リスニングテストでもスコアが1割上昇した。

## 仮説3

授業だけでなく家庭学習としてもCDを聞きながら、継続的に文字付きシャドーイング練習をすれば、英語のインプットが習慣化してインテイクにつながるのではないかと。

## 実践3

授業で扱うリスニングの絶対量は少ないと思われる。多くの英文を読むのと同様に、多くの英文を聞くことで英語的感覚を養う。文字なしシャドーイングに挑戦できるようになる。音読スピードが上げられ、リスニングも楽になる。準2級レベルのリスニング合格を目指す。英検過去問題3級、準2級を含めたリスニング教材を使用する。

## 検証3

英検過去問題を含む練習問題を利用し、3級リスニング問題で全体の平均73%の正答を得た。準2級問題では、第2回英検のリスニング部門合格者平均20点をクリアできる生徒は現在少数であるが、平均16点以上の得点を得た。また、全国模試や学習支援テストでは、生徒の自己評価では18%の生徒がリスニング力の向上を挙げ、家庭学習でのCD活用と今後の英語学習に音読やシャドーイングの必要性を実感している。

## 研究の成果

多くの英文を読むのと同様に、多くの英文を聞くことで英語的感覚を養い、音と意味を合致させることができる。前から英文をチャンクで聞き取り、実際に使ってみるにより、英語はコミュニケーションの道具であるという意識が生まれている。ペアやグループ活動を生かし実際の言語使用の場面を増やすことで、授業参加の態度意欲に改善が見られる。単なる音声だけをとらえるリスニング力の習得ではなく、語彙・文法や区切り読み、シャドーイングを通じて内容理解へのアプローチが出来たのではないかとと思う。

## 今後の授業改善の課題

本実践では音声を効果的に利用することで、英語とOCを連動させ、4技能のバランスを図ることがねらいであった。リスニングやスピーキングの実用面で一定の効果があつたが、入試にも通じる総合的な英語力を伸ばすための改善が課題である。特に長文読解力が伸び悩んでおり、その目標基準の設定と生徒に到達度を意識させる学びのガイダンスが明らかでなかった点が反省として挙げられる。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

(088) 844 - 1221

電子メール

masako\_arisawa@kt2.kochinet.ed.jp